



# うしくり通信

## 子供のスポーツへの 保護者のかかわり方



**子** 供たちがスポーツに触れ楽しむ環境を作るには、指導者のみならず保護者の存在が不可欠です。大きな声援を送り、時には裏方としてサポートすることは、子供たちにとって大きな支えです。

**し** かし、どのようなスタンスでかかわればよいか、悩まれる保護者が多いのも事実です。

**た** とえば子供がスポーツ現場でケガをしたときの対処法など、テーピングの技術や難しいリハビリは不要ですが、正しい情報が必要ですし、その情報をどのようにして得たらよいかわからない保護者がほとんどです。

**多** 数の場合、自分の子供が所属しているチームのやり方しかわからないため、指導者の言うことが当然と思っている場合もあり「真夏に嘔吐しながらでもランニングをさせられるのですが、普通のことでいいですか？」という相談や、パワハラに悩まれたりして「ノー」とは言いにくい状況に置かれている場合もあります。なぜなら、保護者自身も正しいやり方がわからないことがほとんどだからです。

**そ** の関わり方でどこまで口を出してよいか悩まれ、わが子かわいさのあまり、間違った関わり方をする方もいます。

**ス** ポーツをしていた人、していなかった人、いろいろな背景を持つ保護者に「保護者としてこうしてほしい」というあるべき姿を教育している指導者はあまり多くなく、過干渉も無関心も、指導者にとっては悩みの種です。これも根本の原因としては、情報と知識の不足が挙げられます。

**し** かし現場で子供たちを守れるのは、指導者が保護者しかいません。理想的な関係性は、子供を真ん中に、保護者と指導者がその周りを囲んでいる状態です。三角関係は一方向のコミュニケーションしかなく、関与できない一辺が生じてしまいます。

是非以下のHPを参考にしてみてください。

<http://www.sports-parents-japan.com/>

### 保護者の心構え4カ条

#### 指導方法やチームの戦術には口を出さない

その競技を経験したことがあれば、つい言いたくなってしまうかもしれませんが、それをグッと我慢し、子供にも絶対言わないことです。

#### 「縁の下の力持ち」であれ

指導者と協力して子供たちのためのより良い環境づくりをサポートするということに尽きると思います。

#### 保護者は子供の牽引車ではない

子供の「やりたい」という気持ちを、保護者が前に立って引っ張るのは望ましくありません。できれば行きたい方向へ走る子供の斜め後ろで、静かに伴走しながら支えてあげるとよいと思います。



#### 「転ばぬ先の杖」になりすぎない

スポーツでは試合に負けたり、失敗したり、ケガをすることは多くあります。大ケガはもちろん避けなければなりませんが、自分にとって「できる」「できない」を知る上でも、経験しておくことは意味があります。見ていてハラハラすることはあるかもしれませんが、転んでみないとその痛みはわかりませんし、転ぶ前に支えてしまえば、子供はいつまでたっても転び方を学ぶことができません。

